

平成25年度 和歌山県学習到達度調査

結果分析と指導のポイント

# 小学校 国語

平成26年2月  
和歌山県教育委員会

## 1 出題のねらい

- ①当該学年の基礎的・基本的な知識・技能及びそれらを活用する力が身についているかをみるため、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕から出題した。
- ②「話すこと・聞くこと」では、学級会や討論会などの内容を題材に、話し手の立場や目的、意図を明確に聞き取り、自分の意見を相手に伝わるように工夫しながら話す力をみることをねらいとした。
- ③「書くこと」では、本文や資料から必要な情報を読み取り、指定された字数や条件に合わせてまとめ、相手に伝わるように自分の考えを書く力をみることをねらいとした。
- ④「読むこと」では、叙述を基に登場人物の心情や情景を想像しながら読む力や、目的や意図に応じて文章の内容を的確に捉えて読む力をみることをねらいとした。
- ⑤〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕では、小学校学年別漢字配当表に示されている当該学年11月までに学習した漢字を正しく書いたり読んだりする力、慣用句や敬語等の言葉について適切に活用する力等をみることをねらいとした。

## 2 調査結果の概要

- 漢字の読み書きや言語に関する内容等、基礎的・基本的な内容については概ね良好であるが、文章を読み取り、記述する問題等に課題がみられる。

### 【第4学年】

- 説明的な文章を読んで、目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすることについては、良好である。〔第4学年4(3) 正答率81.3%〕
- 文学的な文章を音読する際の読み方と、なぜそのように読むか理由を説明することに、課題がみられる。〔第4学年3(2) 正答率37.1%〕

### 【第5学年】

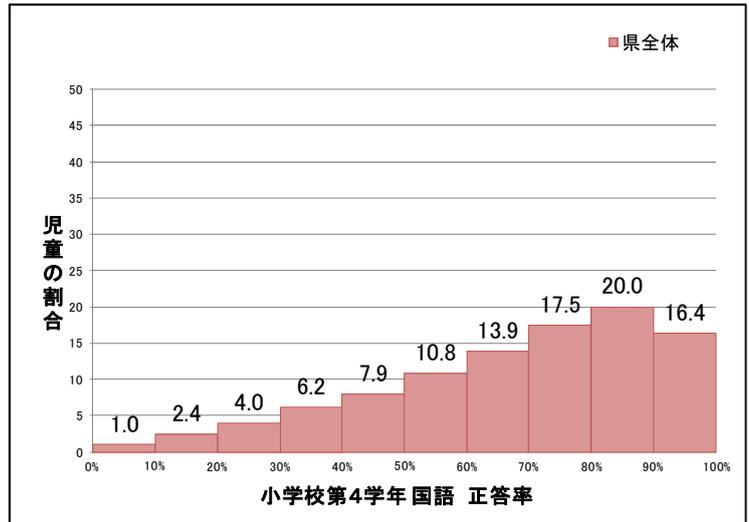
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえることについては、概ね良好である。〔第5学年3(4) 正答率73.6%〕
- 資料（グラフ）から読み取った数字を使って考えを書くことに、課題がみられる。〔第5学年5(2) 正答率28.0% 無解答率31.1%〕

### 【第6学年】

- 想像を豊かにしながら、登場人物の心情をとらえることについては、良好である。〔第6学年3(2) 正答率80.8%〕
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、自分の考えをまとめて書くことに、課題がみられる。〔第6学年3(3) 正答率38.0% 無解答率13.8%〕

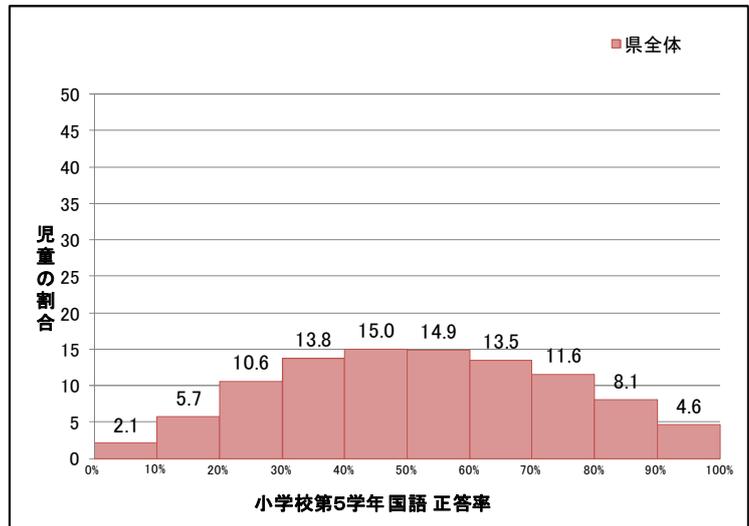
## 小学校国語 第4学年

分類	区分	平均正答率 (%)
		県全体
基礎活用	基礎	70.5
	活用	53.9
領域等	話すこと・聞くこと	64.0
	書くこと	56.0
	読むこと	60.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.0
観点	話す・聞く能力	64.0
	書く能力	56.0
	読む能力	60.0
	言語についての知識・理解・技能	71.0
問題形式	選択式	67.8
	短答式	67.8
	記述式	60.0



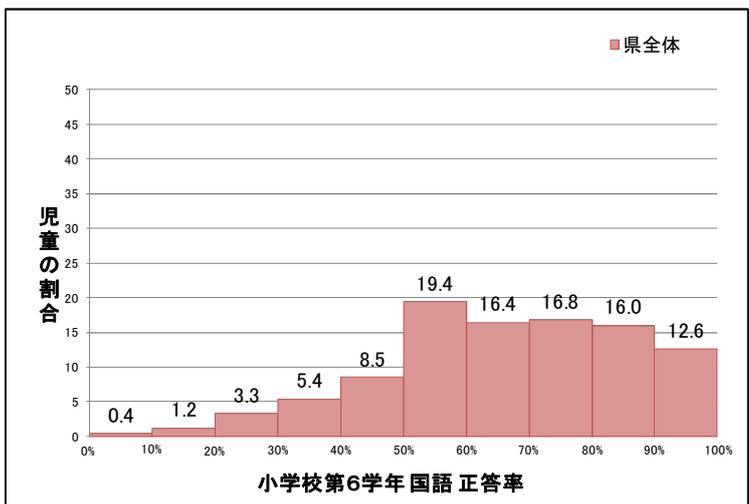
## 小学校国語 第5学年

分類	区分	平均正答率 (%)
		県全体
基礎活用	基礎	54.0
	活用	47.3
領域等	話すこと・聞くこと	50.1
	書くこと	40.9
	読むこと	48.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.8
観点	話す・聞く能力	50.1
	書く能力	40.9
	読む能力	48.6
	言語についての知識・理解・技能	62.8
問題形式	選択式	58.9
	短答式	55.4
	記述式	39.7



## 小学校国語 第6学年

分類	区分	平均正答率 (%)
		県全体
基礎活用	基礎	68.4
	活用	61.7
領域等	話すこと・聞くこと	68.8
	書くこと	57.3
	読むこと	51.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.2
観点	話す・聞く能力	68.8
	書く能力	57.3
	読む能力	51.4
	言語についての知識・理解・技能	81.2
問題形式	選択式	71.7
	短答式	71.0
	記述式	52.1



### 3 誤答例とその分析

#### ○第4学年 正答率の低い問題に見られる誤答例とその分析(基礎・基本問題)

**1**  
次の(1)～(4)に答えなさい。

(1) 次の——部の漢字の読みを、ひらがなで書いていねいに書きなさい。

② お札 ではらう。

正答  
さつ

(3) 次の慣用句の□には、同じ言葉が入ります。①、②にしたがって、あてはまる言葉をそれぞれ書きなさい。

① 体の一部を表す言葉が入ります。

- をはさむ。
- をあいた□がふさがらない。
- が軽い。

正答  
口

領域等	正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	53.7%

領域等	正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	54.0%

主な誤答例	分析・考察、指導のポイント
<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● れい</li> <li>● ふだ</li> </ul>	<p>★分析・考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十分に漢字を確認せずに判断して解答した。</li> <li>・前後の文脈から読みを予想できていない。</li> <li>・日常生活において、よく似た漢字「札」や別の読み方「名札」を使用することが多い。</li> </ul> <p>★指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的によく使われる漢字かどうか、間違いやすいよく似た漢字があるかどうか等、留意しながら指導する必要がある。</li> </ul>
<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 手</li> <li>● 頭</li> <li>● 指</li> <li>● 足</li> <li>● 目</li> </ul>	<p>★分析・考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤答の多くは、体の部位を書いてはいるが、習った慣用句が身につけていない。</li> <li>・解答後、どういう意味かを確認していない。</li> </ul> <p>★指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の生活で使わせてみる。</li> <li>・慣用句を使うことで読み手に意味が効果的に伝わりやすくなることを理解させる。</li> </ul>

## 指導事例

### 【漢字の指導について】

- 新出漢字について、低学年では、筆順や画数、字形等を丁寧に指導する。しかし、学年が進むにつれて、教科書本文を読む際に行うような、読み方主体の授業になっていることが多い。また、定着においては、漢字ドリル等の宿題に任せ、児童の主体的な学習に頼っていることもある。
- 確実に児童に漢字を身に付けさせるためには、教師が正しく漢字を使うとともに、児童に漢字の覚え方を教えることが重要である。
- 筆順には大きく3つの原則がある。これを押さえておくと、筆順が頭に入りやすい。児童にこの原則を教えることで、筆順を意識して漢字を書かせるようにしていく。
- 一つの漢字で複数の読み方がある場合など、文脈から考えられるよう指導しておくことが望ましい。また、常日頃から、辞書を使って調べられるように、辞書を手元に置いておく等の環境を作っておくことも必要である。

筆順の原則		
原則①	上から下へ	三 元
原則②	左から右へ	川 人
原則③	横から縦へ	大 水



### 【指導例】

- 正しい筆順を教える。
  - (1) まずは指で書いて覚えさせる。
  - (2) 筆順やとめ、はね、はらいを正しく覚えさせる。
  - (3) 読み方と意味を教える。
  - (4) 空書きをさせて、児童が正しく書けているか確認する。
- 覚えたら鉛筆を持たせて練習させる。(濃く書かせることで、頭に入りやすくなる。)
- 熟語で練習させる。
- テストをする。間違えた漢字を練習させる。
- 再テストをする。

正しい筆順で書くと  
・書きやすい  
・正確に書ける  
・美しく書ける

### 【慣用句の指導について】

- 中学年において慣用句を学ぶことで、言葉がさまざまなたとえになっていることを理解したり、同じような意味を表す言葉があり、生活の中で使われたりしていることを認識する。慣用句を使うことで、表現したい場面や様子がさらに伝わりやすくなることに気づくことになる。習った慣用句を生かして文章を作り発表するなど、親しみをもたせることが大切である。
- 漢字や慣用句、ことわざ等は、新たに出てきたときに学習するだけでは十分身につかず、生活の中で活用していくことができない。日頃の学習指導の中で、反復的螺旋的に指導していくことが必要である。



### 【指導例】

#### ★慣用句のカルタ作り

- ① 慣用句集めをする
- ② 同じ意味の慣用句を分類する
- ③ 絵札、読み札を書く
- ④ カルタをする

#### ★共通語句による慣用句を集めてみる

慣用句を学ぶ際には、共通の語句を使っているながらも意味が違う場合がある。使われ方を理解させ、親しむようにしたい。

「むね」  
・むねがいたむ  
・むねがおどる  
・むねがいっぱいになる

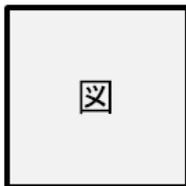
「かお」  
・かおがひろい  
・かおからひがでる  
・かおがうれる

4

次の文章を読んで、あとの(1)～(4)に答えなさい。

説明的な文章(本文)

(1) 次の図を、本文の中に入れることにしました。この図を入れることによって、文中のどの一文がより分かりやすくなりますか。その一文をぬき出しなさい。



正答

全長六十センチメートル、……頭をしています。

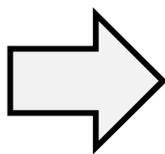
領域等	正答率	無解答率
読むこと	44.5%	11.8%

主な誤答例	分析・考察、指導のポイント
<p>① するどいつるぎのような……頭をしています。</p> <p>② カブトガニは、……珍しい動物です。</p> <p>② このカブトガニは……生き続けてきた動物です。</p>	<p>★分析・考察</p> <p>① 正答に近いが、一文を書き抜けていない。</p> <p>② 図の動物を見て、その動物が主語となっている一文を書き抜いた。</p> <p>★指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一文の意味を確認し徹底する。</li> <li>「文中から抜き出す」場合は、一言一句漏らさず書き抜くことを徹底する。発問し、児童が発言する場合も同様である。</li> <li>図から読み取った情報と、文が対応しているか確認させる。</li> </ul>

【説明的な文章の指導について】

《指導事項》

第3学年及び第4学年 C読むこと(1)エ  
「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」



《言語活動例》

第3学年及び第4学年 B書くこと(2)ウ  
「収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書く言語活動。」

○ 教材の内容を理解するだけの読みではなく、どのような構造で書かれているかという観点で読み進めることで、「書くこと」につなげていけるようにする。

※ 実際に引用や要約をするに当たっては、文章の表現や情報だけに限らず、図表やグラフ、絵や写真なども含むことに留意しなくてはならない。



【指導例】

◇単元名：「アップとルーズで伝える」（光村図書『国語 四下 かがやき』）

◇単元目標：○ 各段落が文章全体の中で果たしている役割を考えて読んだり、資料と文章との対応部分について、説明の工夫に気づいたりすることができる。  
○ 書こうとすることの中心を明確にして、写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して文章を書くことができる。

◇本時の目標：本文を読み、文章と写真とを対応させて書くよさに気づくことができるようにする。

主な学習活動	発問・指示	指導のポイント
○ばらばらに提示した写真を、文章の内容に合わせて並び替える。	「ばらばらに並んでいる4枚の写真を、段落の内容に合うように並べ替えなさい。」	・写真を並び替えることで、書いてある文章の構成をとらえることができる。
○文章と写真とがどのように対応しているかについて話し合う。	「なぜそのような並べ方にしましたか。本文を根拠にして答えなさい。」	・写真を並べた順の根拠となる文にサイドラインを引かせたり、文が対応している写真の部分に○を付けさせたりすることで、その効果について考えることができる。 ・個人からペア、グループ、そして学級全体へと話し合いを広げていく。
○写真の題名を考える。	「写真にどのような題名を付けたらいいでしょうか。～の写真というふうに書きなさい。」	・題名を考えるために、文章からキーワードとなる言葉を探し出すことになる。厳選する中で、文章を論理的に読んでいくことができる。
○文章と写真を対応させて書くことのよさをまとめる。	「文章だけと比べると、写真に対応させて文章を書いているときのよさはなんですか。一文で書きなさい。」	・写真と文章を対応させて書くと、読み手はより分かりやすくなるということをおさえ、次の単元で、自分が書く文章にも写真を取り入れてみようという意欲を喚起させる

4

次の新聞記事を読んで、あとの(1)～(4)に答えなさい。

説明的な文章(本文)

(1) 新聞記事の中の **ア**、**イ**、**ウ** について、これらの関係を説明したものととしてふさわしいものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 記事の内容を短くまとめて **ア** で示し、その内容を **イ** から **ウ** へとだんだんくわしく書いている。

2 記事の中でもっとも伝えたい内容を **ア** で示し、地域住民の考えを **イ**、記者の考えを **ウ** に書いている。

3 記事の中で問題となった事がらを **ア** で示し、それを解決するための具体的な方法を **イ** と **ウ** に書いている。

4 記事として取り上げた内容の中でもっとも新しい事がらを **ア** で示し、**イ** から **ウ** へとだんだん古い内容を書いている。

正答

1

領域等	正答率
読むこと	53.4%

多かった誤答の順

分析・考察、指導のポイント

- 2 記事の中でもっとも伝えたい内容を **ア** で示し、地域住民の考えを **イ**、記者の考えを **ウ** に書いている。
- 3 記事の中で問題となった事がらを **ア** で示し、それを解決するための具体的な方法を **イ** と **ウ** に書いている。
- 4 記事として取り上げた内容の中でもっとも新しい事がらを **ア** で示し、**イ** から **ウ** へとだんだん古い内容を書いている。

- ★分析・考察
- 2と解答したが、**イ** には住民の考えは書かれていない。見出しをもっとも伝えたいことと解釈したと思われる。
  - 3と解答したが、**ア** には問題となった事がらは書かれていない。また、**イ** には解決するための具体的な方法は書かれていない。
  - 4と解答したが、この記事は時系列で書かれていない。
- ★指導のポイント
- 見出しやリード文、本文などの新聞記事が持つ特徴的な構成を理解し、目的に応じて要点を捉えたり、事実と意見を読み分けたりすることができるような指導が大切である。新聞記事を教材として取り上げて指導することも必要である。



3

次の文章を読んで、あとの(1)～(5)に答えなさい。

文学的な文章(本文)

(5) 中村さんは、①……部の音読の工夫を、次の□□□□のようにまとめました。

【中村さんが考えた音読の工夫】

〈工夫したい文〉  
岩だらけのがけ。それは、追われたカモシカのにげ場でした。

〈読み方〉  
句読点の間をとって、ゆっくりと静かに読みたい。

〈理由〉  
年をとった二ひきのカモシカの、りょう犬からにげることができた安心感を表現したいから。

本文中の——部「りょう犬は、じりじりとせまっています。」を音読する場合、あなたならどのような工夫をしますか。【中村さんが考えた音読の工夫】を参考にしながら、次の【条件】に合わせて書きなさい。

- 【条件】
- [A]には、「読み方」を書くこと。
  - [B]には、その「理由」を三十字以上、五十字以内で書くこと。(句読点をふくむ。)

正答例

A 「じりじりと」を少し強めに、低い声で読みたい。  
B 二ひきのカモシカが、りょう犬にとり囲まれ、少しずつ追いつめられていくきんちよう感を表現したいから。

領域等	正答率	無解答率
読むこと	43. 2%	14. 7%

主な誤答例		分析・考察、指導のポイント
A	① 武夫は、先ほどから……………。 ② カモシカの逃げ場の岩だらけのがけ。 ③ カモシカのとした行動について。 ④ カモシカがおそわれている時は、はげしく読む。 ⑤ Bが書けていない。	★分析・考察 ① 読み方ではなく、別の読む箇所を抜き出している。 ② 情景を説明している。 ③ 何について読みたいかを書いている。 ④ 問と違う箇所の読み方について述べている。
B	① りょう犬からにげることができた安心感を表現したい。 ② ゆっくり読んだらみんな聞きやすい。 ③ 二ひきのカモシカが岩だらけのがけににげて、りょう犬たちがじりじりと迫ってきているから。 ④ 年をとったカモシカの場面で、表現や気持ちを伝えたい。	★分析・考察 ① 文の情景と一致していない。 ② 情景を描写する読み方についての理由ではない。 ③ 情景を説明している。 ④ 指定された文の読み方を工夫する理由になっていない。 ★指導のポイント ・ 「読み方」の工夫として、音読練習の中で、声の大きさ、質、速さ、強さ、間の取り方、抑揚等を指導する必要がある。 ・ テキストに書かれていなくても、予想される行動や心情の変化などを、描写から客観的に推測させることが重要である。このように読み取った行動や心情、相互関係等を根拠として、読み方を考えさせる指導が必要である。 ・ まずは、正しく読み取らせる(読解させる)。次に、読み取ったことを根拠に「読み方(音読の仕方)」を考えさせる。最後に、「声の出し方(音読)」に反映できるようにする。

【読むことの指導について】

《指導事項》

第5学年及び第6学年 C読むこと(1)エ・ア

「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読み、自分が感じた思いや考えが伝わるように朗読をすること。」

単元を貫く言語活動  
「ぐっと心にひびいた場面を、朗読で表現しよう」

【学習のポイント】

- ① 朗読したい場面を見つけるために読む。
- ② なぜ、その場面が心に響くのか、理由を明らかにするために読む。
- ③ どう読めば、自分の感動が伝わるか考えながら朗読する。
- ④ 並行読書を第三次に生かすために・・・
  - ・並行読書している本に、心に響いた理由を付箋で記入しておく。
  - ・記入した付箋を活用し、朗読したい場面を決め、読み方を考える。



【指導例】

◇単元名：「大造じいさんとガン」（光村図書『国語 五 銀河』）

◇単元目標：○ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写、優れた叙述について読み深め、自分なりの思いや考えをもつことができる。  
○ 自分の思いや考えが伝わるように朗読することができる。

◇本時の目標：朗読したい場面を選び自分の思いや考えが伝わるように読み方の工夫を考えることができる。

＜読み方＞

ゆっくり静かに、句読点で間を取って読む。特に、「ぎゅっと」を力強く読みたい。

＜理由＞

「ずっと残雪にやられっぱなしだったが、今度こそうまくいくはずだ。」と、今まで以上に残雪との戦いに胸をおどらせながらも、群れをじっと待つ大造じいさんのきんちょう感を表したいから。

〔第二次 読み方の工夫 ノート例〕

東の空が………来ました。  
残雪は、………  
やがて、………  
来ました。  
待ちました。そして………  
にぎりしめました。

○ 理由  
ガンを何としてでもしとめたいという大造じいさんの強い思いと、群れを待つ緊張感が一番感じられる場面だから。

○ 朗読したい場面  
小屋の中から残雪の群れを待ち構えている場面

【読み方の工夫について】

(平成22年度全国学力・学習状況調査【小学校】報告書から抜粋)

「読み方の工夫」については、読み取った登場人物の性格や心情、相互関係を「理由」として、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などの「声の出し方」に反映できるようにする。

【音読と朗読の違い】

**音読**では、書き手の意図を考え自分の思いや考えと合わせて音声化していく必要がある。  
文章の内容や表現をよく理解して伝えることに重点がある。

**朗読**は、児童一人一人が自分なりに解釈したことや、感心や感動したことなどを、文章全体に対する思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝えることに重点がある。

○第6学年 正答率の低い問題に見られる誤答例とその分析(基礎・基本問題)

3

**正答例**

**カララ**が自分と**いっしょに死ぬ覚悟**をしていることが**わかった**から。

【条件】

○ 「カララ」、「覚悟」という二つの言葉を使うこと。

○ 三十五字以内にまとめて書くこと。(句読点をふくむ。)

文学的な文章(本文)

(3) イ 「クルルの心が少しずつ解けていく気がした。」とありますが、クルルの心がこのように変化したのはなぜですか。次の【条件】に合わせて書きなさい。

次の文章を読んで、あとの(1)～(3)に答えなさい。

領域等	正答率	無解答率
読むこと	38.0%	13.8%

主な誤答例	分析・考察、指導のポイント
<p>① カララがクルルと同じように覚悟してくれていたから。</p> <p>② カララは何も言わなかった。日に日に寒さが増してくる。こいつ覚悟している。</p> <p>③ 日に日に寒さが増してくるのにカララは何も言わずとなりにいてくれたから。</p> <p>④ こいつ覚悟しているなと思ったとき、クルルはカララを突き飛ばすように羽ばたいた。</p>	<p>★分析・考察</p> <p>① 何を覚悟しているかが書けていない。</p> <p>② 文を抜き出している。</p> <p>③ 2つの言葉を使っていない。</p> <p>④ 情景の説明をしている。</p> <p>★指導のポイント</p> <p>【文学的な文章の解釈】</p> <p>文学的な文章における登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえさせるためには、登場人物それぞれの行動や会話、情景についての叙述に着目し、人物相互の関係をとらえられるようにすることが重要である。そのためには、登場人物の関係を整理し、物語の展開に即して、人物像や相互の関係、役割を叙述をもとに読むことを指導する。</p>

【文学的な文章の指導について】

《指導事項》

第5学年及び第6学年 C読むこと エ

「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」

- 登場人物の心情の変化が分かる部分をとらえさせる。
- 会話文や地の文から登場人物の相互関係をとらえさせる。
- 登場人物の会話や行動から、登場人物の考え方をとらえさせる。
- 読み取ったことを生かしながら、自分の考えを文章にまとめさせる。
- 友達と交流することで、自分の考えを広げたり深めたりさせる。



文学的な文章の指導（例）

◇单元名：「カレーライス」（光村図書『国語 六 創造』）

- ◇单元目標：
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、自分の考えをまとめることができる。
  - 「カレーライス」を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

◇本時の目標：3日目の夕方の場面を読み、「ぼく」の心情の変化について考え、友達と話し合うことができる。

1 登場人物の心情の変化が分かる部分をとらえさせる。

单元末の手引きの「『お父さんウィーク』三日目の夕方、『ぼく』の気持ちには、どのような変化があったのだろう。特にそれが分かる部分を見つけよう。」を取り上げる。

2 会話文や地の文から登場人物の相互関係をとらえさせる。

初めから登場人物の「ぼく」はお父さんに怒っているが、終わりには、お父さんと仲良く特製カレーを食べている。怒っている「ぼく」の心情の変化を、初日「おしゃべりすることなく終わった。」、二日目「言いたかったけど、言えなかった。」、三日目「言える言える、だいじょうぶだいじょうぶ、と自分を元気づけた。」等の表現からとらえさせる。

[お父さんに対する「ぼく」の怒り]



3 登場人物の会話や行動から、登場人物の考え方をとらえさせる。

『お父さんウィーク』三日目の夕方、「ぼく」はお父さんと初めて会話をする。そして、「中辛」のカレーをお父さんと一緒に作ることを押さえさせる。

4 読み取ったことを生かしながら、自分の考えを文章にまとめさせる。

5 友達と交流することで、自分の考えを広げたり深めたりさせる。

考えを交流することで、友達の考えと自分の考えを比較、検討させる。

**正答例**

この給食は、六年生の思い出になるように始められました。当日の給食は、もりつけが「うさぎ」で、メッセージもそえられているので、六年生は楽しみにしています。

領域等	正答率	無解答率
書くこと	39.4%	14.2%

5 和歌山小学校の本山さんたちは、修学旅行先で知り合った他県の六年生に、自分たちの学校をしようかいするためのパンフレットを、グループで作ることになりました。

パンフレットを完成させるには、次のような道筋をたどることが必要です。

「パンフレット完成までの道筋」

①構想 ↓ ②取材 ↓ ③構成 ↓ ④記述 ↓ ⑤推敲 ↓ ⑥完成

あとの(1)～(3)に答えなさい。

【資料】(パンフレットの下書きの一部)

しようかいます！  
和歌山小・四つのみりよく

〈みりよく一〉  
歴史ある和歌山小学校  
和歌山小学校は、大変歴史のある学校で、校庭には百年以上前に植えられたくすの木があります。  
江戸時代の有名な学者が、明治時代に学校として……

〈みりよく二〉  
卒業前に、六年生が楽しみにしている「リクエスト給食」の日があります。この日は、六年生へのアンケートで好きな献立で第一位になったものを給食にしてくれます。

この給食は、  
ア

〈みりよく三〉  
「リクエスト給食」のこん立ては、六年生にアンケートを行い、好きなこん立て第一位になったもの。  
もりつけがうさぎなので、一人ひとりへの調理員さんからのメッセージが楽しみ。

〈みりよく四〉  
卒業する六年生の楽しい思い出になるように十年前から始めた。  
地元でとれた農作物を使っている。  
六年生に喜んでもらえるよう、もりつけを工夫するのも楽しんでいる。

【条件】  
○ 本山さんの意見を受け、「六年生への取材メモ」と「調理員さんへの取材メモ」の両方から内容を取り上げて書くこと。  
○ 書き出しをふくめて六十文字以上、八十文字以内で書くこと。(句読点をふくむ)

【問い】 「この給食は、」の書き出しに続けて、「ア」に入る内容を、次の【条件】に合わせて書きなさい。

(2) 本山さんのグループは、「④記述」の段階で、【資料】の「ア」の記事を書き始めています。あとの【問い】に答えなさい。

(本山さんの意見)

「リクエスト給食」については、「六年生への取材メモ」と「調理員さんへの取材メモ」を整理して書けばいいと思う。「リクエスト給食」の始まった理由と六年生が楽しみにしていることを書くといいね。

「六年生への取材メモ」

「調理員さんへの取材メモ」

主な誤答例	分析・考察、指導のポイント
<p>① 盛りつけが豪華と、調理員さんからのメッセージが楽しみ。地元野菜を使っているそうです。</p> <p>① 6年生の楽しい思い出になるように10年前からはじめた。地元の農作物を使っている。</p> <p>① 6年生にアンケートを行い好きな献立第1位になったもので、地元でとれた野菜を使い……</p> <p>② 6年生たちがどんな給食にしたいかを決めます。その給食を作るのは、学校の調理員さんです。調理員さんも6年生への思いを乗せて給食を作りたいと思う。</p>	<p>★分析・考察</p> <p>① 3つのキーワード(始まった理由、6年生・調理員から双方の取材から6年生が楽しみにしていること)がすべて書かれていない。</p> <p>② 取材メモの言葉を使わずに書いている。</p> <p>★指導のポイント</p> <p>【記述】</p> <p>目的や意図に応じて、取材した内容をもとに文章を書くためには、自分の考えが明確になるように文章全体を構成できるようにすることが重要である。そのためには、取材した内容を事実と感想、意見に区別して自分の考えを構成させる。</p>



### 1 基礎力を身に付けさせる

- 小学校における学習の基礎は、作業を丁寧にする、最後までやり遂げることであり、学習意欲は、「できた」「ほめられた」など、小さな成功体験の積み重ねがあってこそ高まるのである。これらを実現するための効果的な方法の一つとして、ノート指導の充実が考えられる。縦横に罫があり、字が整いやすいように基準線があるノートに、丁寧に作業をさせることが重要である。
- スポーツで基礎体力がないと基本的な技ができないのと同じように、国語科においても基礎力が必要である。例えば音読、漢字、名文暗唱、視写、辞書引き等々の学習を通して身に付く力である。ただし、このような基礎力は一朝一夕に身に付くものではない。毎日少しの時間、継続的に取り組ませることが重要である。国語の授業以外でも読書、日記等に継続的に取り組ませることも効果的である。
- 慣用句や敬語などの学習は、新出漢字と同様に一度学習しただけでは定着が難しい。そのため、多様な場面や状況における学習の積み重ねが必要である。家庭学習、宿題だけに任せてしまうのではなく、国語の授業の中で「できた」「ほめられた」という、児童にとって満足感が得られるような活動を、楽しくかつ飽きずにできるように工夫することが大切である。

### 2 発問や指示など、出された課題に的確に答える力を身に付けさせる

- 授業に発問・指示があるように、到達度調査等の課題にも「問い」や「指示」が書かれている。教師は、発問・指示を熟考し、その答えまたは、評価規準・基準を明確に持って授業に臨む必要がある。児童は、何を問われているのかを正確に把握し、的確に答えることが必要になる。授業中の児童の発言をじっくりと聞いてみると、せっかく良い意見を言っているにもかかわらず、考えを上手くまとめられていなかったり、余計な言葉が多くて正確に伝わらなかったりすることがよくある。「一文を抜き出さない。」「教材文にある言葉を使って30字程度で書きなさい。」「～と比較しながら簡潔に説明しなさい。」など、答え方を限定することで、自分の考えを簡潔に表す力を身に付けさせることが肝要である。

### 3 児童の経験や感性だけに任せた授業ではなく、根拠に基づき論理的に思考させる授業へ

- 他の児童より経験が豊富で学力の高い児童だけが活躍するような授業をよく見かける。このような授業を続けていると、学力差がさらに大きくなり、課題のある児童は、学習意欲を失くしてしまうことになりかねない。改善のためには、授業では、「学び方」を教える必要がある。例えば、テキストから必要な情報の取り出し方、獲得した情報の整理の仕方、さらには、比較して思考したり、推測したりする方法など、実際に課題を解決する過程を通して教える必要がある。
- 文学的な文章を使った心情の変化を捉える授業で、「主人公の気持ちがわかる場所に線を引きなさい。」「どのような気持ちですか。」のように進められる授業を見かける。このような授業では、多くの児童は自らの経験や感性のみで答えを考え、論理的に思考することが不十分である。そればかりではなく、誤読している児童も少なくない。たとえ根拠を示すように言っても、児童は何をどう考えてよいのかわからず、結果として基礎的・基本的な知識技能の習得にはつながりにくい。読解のための視点や文学用語を教えるなど、根拠を持って考えられるような授業をすることが大切である。

#### 〈授業改善に関する参考資料〉

- ・和歌山の教育 基礎・基本 (<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500200/h24/kyouikukisokihon.pdf>)
- ・どの子も「わかる・できる」授業づくりのアイデア (<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500200/wakarudekiru/wakarudekiru.html>)
- ・全国学力・学習状況調査リーフレット等 ([http://www.wakayama-edc.big-u.jp/zenkoku/h21\\_kyosyokuin\\_leaf.pdf](http://www.wakayama-edc.big-u.jp/zenkoku/h21_kyosyokuin_leaf.pdf))